



コーヒーマーカー保証書

持込修理

取扱説明書・本体表示などの注意書きに従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理いたします。製品と本書をご持参のうえ、お買い上げの販売店にお申しつけください。この製品は持込修理対象製品ですので、郵送などで修理依頼された場合の送料などはお客様負担となります。

型名	EC-SA40		修理メモ
※お客様	お名前	電話番号	
	ご住所 〒		
※お買い上げ日	※販売店名・住所・電話番号		
年月日			
保証期間	お買い上げ日より 本体1年		

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ご転居・ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社のお客様ご相談窓口にご連絡ください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りや不当な修理・改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害・塩害・虫害・ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧・指定外の使用電源(電圧・周波数)などによる故障および損傷。
 - (ニ) 一般家庭用以外(たとえば業務用など)に使用された場合の故障および損傷。
 - (ホ) 車両・船舶などに搭載された場合の故障および損傷。
 - (ヘ) 本書のご提示がない場合。
 - (ト) 本書にお買い上げ年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書きかえられた場合。
 - (チ) 消耗品などの交換。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

- お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます場合もございますので、ご了承ください。
- この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社のお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

象印マホービン株式会社

〒530-8511 大阪市北区天満1丁目20番5号 電話(06)6356-2451

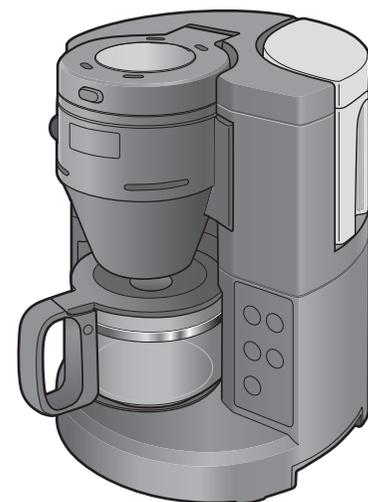
コーヒーマーカー

珈琲通®

型名 EC-SA40 型

取扱説明書

保証書つき



- このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ごぞいませ。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管してください。

「ZOJIRUSHIオーナーサービス」で製品登録をお願いいたします。

ZOJIRUSHIオーナーサービスではご登録いただいたお客様に消耗部品の特別価格販売など様々な特典をご用意しています。

【ZOJIRUSHIオーナーサービスWEBサイト】
<https://www.zojirushi-support.jp/>



- 「ZOJIRUSHIオーナーサービス」の登録についてはパソコン・スマートフォン・タブレットといった機器が必要です。
- 本サービスは、日本国内に居住する個人のお客様に限り、日本国内でのみ利用可能です。

もくじ

お使いになるまえに

- 安全上のご注意 …………… 2
- 各部のなまえ …………… 5
- 各部のつけ方・はずし方 …………… 8

使い方

- 使い方 …………… 11

お手入れ

- お手入れ …………… 19
- ・クエン酸洗浄のしかた …………… 21

困ったときに

- 故障かなと思ったとき …………… 22
- 部品の交換・購入について …………… 24
- アフターサービス …………… 25
- 仕様 …………… 25
- お客様ご相談窓口 …………… 26
- 保証書 …………… 裏表紙

愛情点検

長年ご使用のコーヒーマーカーの点検を!



こんな症状はありませんか

- ご使用中、コード・差込みプラグが異常に熱くなる
- 焦げくさいにおいがする
- 製品の一部に割れ・がたつき・緩みがある
- その他の異常や故障がある

ご使用中止

こんな症状のときは、故障や事故防止のため、使用を中止し、コンセントから差込みプラグを抜いて、必ず販売店に点検(有料)をご相談ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を、次の区分で説明しています。

 警告 死亡や重傷に結びつく恐れがある内容です。	 注意 軽傷または家屋・家財などの損害に結びつく恐れがある内容です。
---	--

■お守りいただく内容を、次の区分で説明しています。

 してはいけない「禁止」内容です。	 実行しなければならない「指示」内容です。
---	--

警告

 **改造はしない。また修理技術者以外の人には、分解したり修理をしない**
分解禁止
火災・感電・けがの原因になります。修理はお買い上げの販売店または弊社のお客様ご相談窓口にご相談ください。

 **コードを傷つけない**
禁止
無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、高温部に近づけたり、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりするとコードが破損し、火災・感電の原因になります。

 **本体を水に浸けたり、水をかけたりしない**
水ぬれ禁止
ショート・感電の原因になります。
コードや差し込みプラグを液体に浸けたり、液体をかけたりしない
ショート・感電の恐れがあります。

 **差し込みプラグは根元まで確実に差し込む**
必ず実施
感電・ショート・発煙・発火の原因になります。
定格15A以上のコンセントを単独で使う
他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して、発火の原因になります。

 **ぬれた手で差し込みプラグを抜き差ししない**
ぬれ手禁止
感電・けがの恐れがあります。

差し込みプラグの刃(プラグの先端)および刃の根元にほこりが付着している場合は、よくふく
火災の原因になります。

 **蒸気口・保温板に触ったり、手や顔を近づけない**
接触禁止
やけどの恐れがあります。特に乳幼児には触らせないようにご注意ください。

異常・故障時には、直ちに使用を中止する
そのまま使用すると発煙・発火・感電・けがの原因になります。
<異常・故障例>
●コードや差し込みプラグが異常に熱くなる
●コードに深い傷や変形がある
●焦げくさいにおいがする
●製品の一部に割れ・がたつき・緩みがある
●コードを動かすと、通電したりしなかったりする
●スイッチを入れても動かない
●本体から水漏れする
●蒸気口以外の場所から水や蒸気が漏れる
●本体が変形したり、異常に熱くなる

このような場合は、すぐに差し込みプラグを抜いて、販売店に必ず点検・修理を依頼する

 **子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない**
禁止
やけど・感電・けがの恐れがあります。
交流100V以外では使用しない
火災・感電の原因になります。
ガラス容器なしで使わない
コーヒーがこぼれたりやけどの恐れがあります。
コードや差し込みプラグが傷んだり、コンセントの差し込みが緩いときは使用しない
感電・ショート・発火の原因になります。



●お買い上げの製品と本書に記載したイラストは異なることがあります。

注意

 **使用中や使用後しばらくは高温部(シャワードーム・ミルクケースふた・スイングバスケット・ガラス容器など)に手を触れない**
接触禁止
やけど・けがの恐れがあります。

 **火気の近くで使用しない**
禁止
火災の原因になります。
ドリップ中は水をつぎ足さない
コーヒがあふれて、やけどの恐れがあります。

 **熱に弱い敷物の上では使用しない**
禁止
火災の原因になります。
不安定な場所では使用しない
やけど・けがの恐れがあります。

水タンクに水を入れて取りつけたあとは、本体からはずしたり、動かしたりしない
やけど・水漏れ・故障の原因になります。
本体の刃は鋭利なため、手を入れたり触れたりしない
コーヒ豆やコーヒ粉を取り除くときは、必ず付属のブラシを使用する
けがの恐れがあります。

ガラス容器を載せたまま本体を動かさない
やけど・けがの恐れがあります。

使用時以外は、差し込みプラグをコンセントから抜く
プラグを抜く
けが・やけど・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

壁や家具の近くで使わない
蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因になります。

ドリップ中にガラス容器をはずさない
やけどの恐れがあります。

本体・ガラス容器を電子レンジで使用したり、直火(ガス台など)や電気ヒーター・IH調理器・IHクッキングヒーターなどの上に載せない
発煙・発火・とっ手の変形・金属部から火花が飛び散る原因になります。

 **お手入れは冷めてから行う**
必ず実施
高温部に触れ、やけどの恐れがあります。

差し込みプラグを抜くときは、コードを持たずに必ず先端の差し込みプラグを持って引き抜く
感電・ショート・発火の原因になります。

安全上のご注意 つづき

お願い

<p>■ 水タンクに水以外のものを入れない 牛乳・酒・コーヒー・湯など、水以外のものを水タンクに入れると故障の原因になります。</p>	<p>■ ガラス容器が熱いうちに水の中に入れたり、水をかけたり、ぬれた場所に置かない 傷がつくと破損しやすくなります。もし割れた場合は、取り除くときに手を切らないよう十分ご注意ください。</p>
<p>■ 他の電気機器に蒸気が当たる場所では使用しない 蒸気により、電気機器の火災・故障・変色・変形の原因になります。</p>	<p>■ 使用中にミルクケースふたやスイングバスケットを開けない やけどの恐れがあります。</p>
<p>■ 続けて運転する場合は、スタートランプが消灯した状態で5分以上待つ 本体が熱いうちに給水したり動かしたりすると、蒸気口から突然蒸気や熱湯が出て、やけどの恐れがあります。また、連続してコーヒー豆を挽くと内部モーターの故障の原因になります。</p>	<p>■ ドリップ直後にペーパーフィルターやステンレスメッシュフィルターを直接触らない やけどの恐れがあります。</p>
<p>■ 水にぬれた場所で使用しない 感電の恐れがあります。</p>	<p>■ 空だきはしない 保温時以外に水タンクに水を入れずに通電すると、故障の原因になります。</p>
<p>■ ガラス容器は、落としたり、固いものにぶついたりしない ガラスが割れてけがの恐れがあります。</p>	<p>■ 屋外で使用しない 故障の原因になります。</p>
<p>■ ミルクケースにコーヒー豆以外のものを入れない 故障の原因になります。</p>	<p>■ 使用中や使用後しばらくはスイングバスケットの下に手を入れない 湯沸かし中やミルクケースふたの開閉などで湯が垂れて、やけどの恐れがあります。</p>
<p>■ 細挽き粉を使用しない コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。</p>	<p>■ カーペット・布製のテーブルクロスの上では使用しない コーヒーが飛び散る恐れがあります。</p>
<p>■ 計量スプーンのすりきり3 3/4 杯(約30g)を超えるコーヒー豆(粉)を入れない コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。</p>	<p>■ 水タンクに水を入れたまま放置しない 故障・変色・におい・腐敗の原因になります。</p>
<p>■ テーブルからはみ出した状態で使用しない けが・やけどの恐れがあります。</p>	<p>■ 使い終わったら、必ず差込みプラグをコンセントから抜く 長時間通電を繰り返しされると故障の原因となり、異常加熱や発煙する場合があります。</p>
<p>■ 水タンクを本体からはずすときは、本体を押さえる 本体が持ち上がり、落下することがあります。</p>	<p>■ 持ち手以外を持って本体を持ち運ばない</p>

各部のなまえ

ガラス容器(ジャグ)

ガラス容器目盛

マグカップ	コーヒーカップ	アイスコーヒー
できあがり量の目盛 1杯：約 180mL	できあがり量の目盛 1杯：約 120mL	できあがり量の目盛 1杯：約 60mL
給水量の目盛	給水量の目盛	給水量の目盛
2	4	4
1	3	3
1	2	2
1	1	1

注：アイスコーヒーは「ICE」モードで給水し、できあがり量は約60mLです。

付属品

- **ペーパーフィルター(2枚)**
ペーパーフィルターがなくなったときは、市販の1×2(2~4杯用)、または102(2~4杯用)をお求めください。

- **計量スプーン**
コーヒー豆・コーヒー粉
すりきり 1杯約 8g

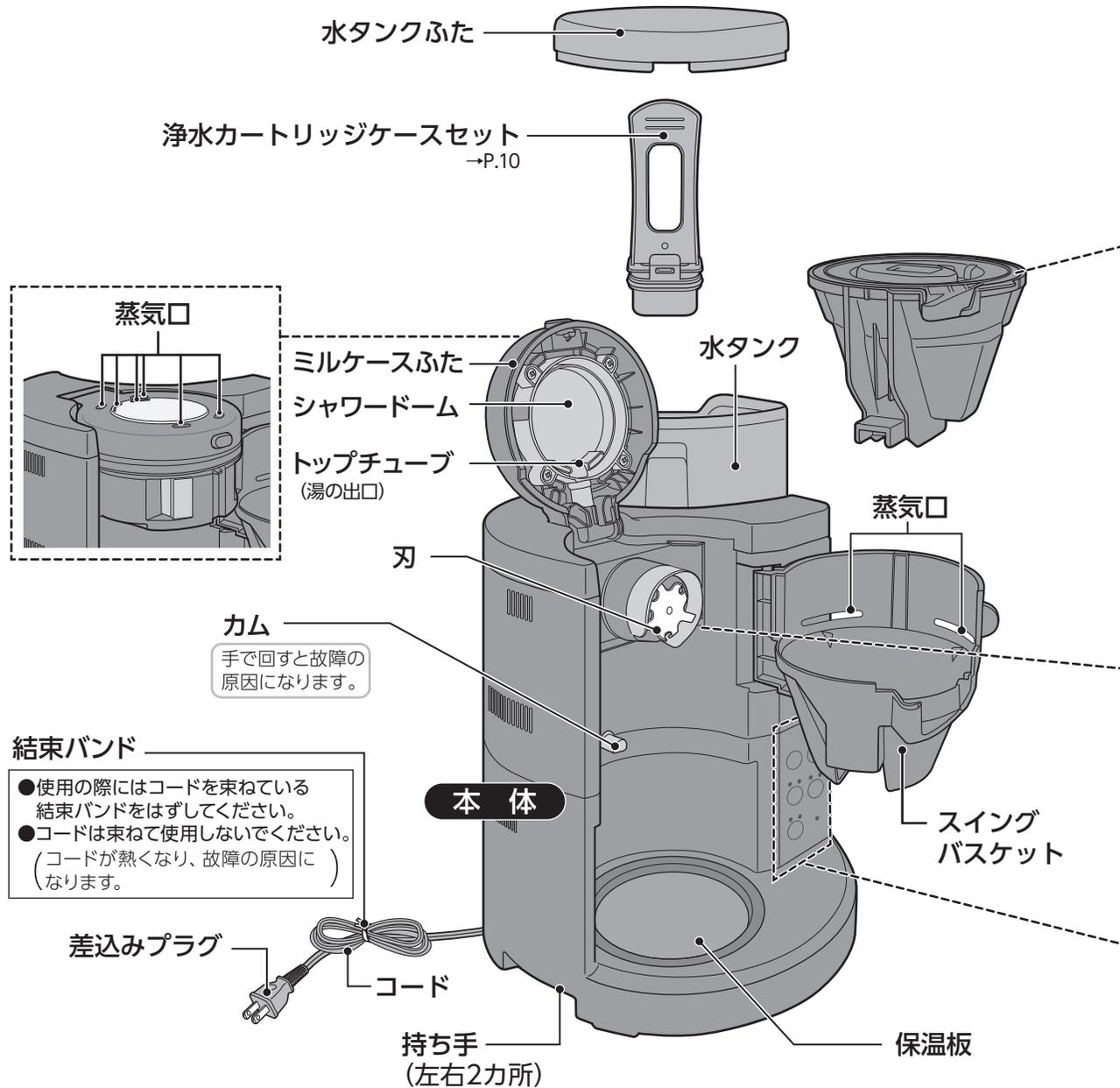
- **ステンレスメッシュフィルター**

- **ミルクケースブラシ**
お買い上げ時は計量スプーンに取り付けられています。

- **浄水カートリッジ(消耗品)**
お買い上げ時は浄水カートリッジケースセットに取り付けておられますのでお使いになる前に取りつけてください。(→P.10)

お買い上げ時はペーパーフィルター(2枚)、計量スプーン、ミルクケースブラシ、浄水カートリッジ(消耗品)は水タンクの中に入っています。

各部のなまえ つづき

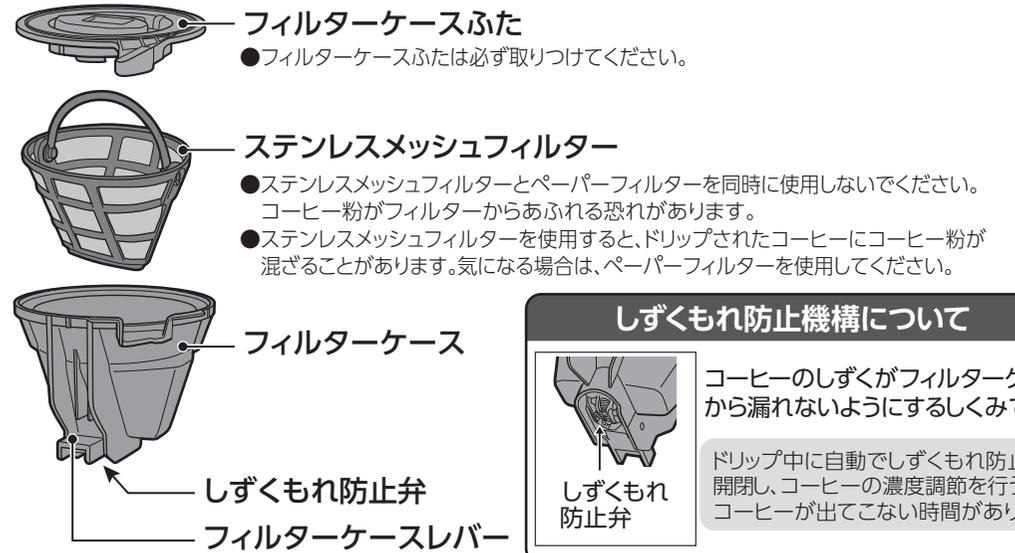


結束バンド

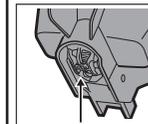
- 使用の際にはコードを束ねている結束バンドをはずしてください。
- コードは束ねて使用しないでください。(コードが熱くなり、故障の原因になります。)

手で回すと故障の原因になります。

フィルターケースセット



しずくもれ防止機構について

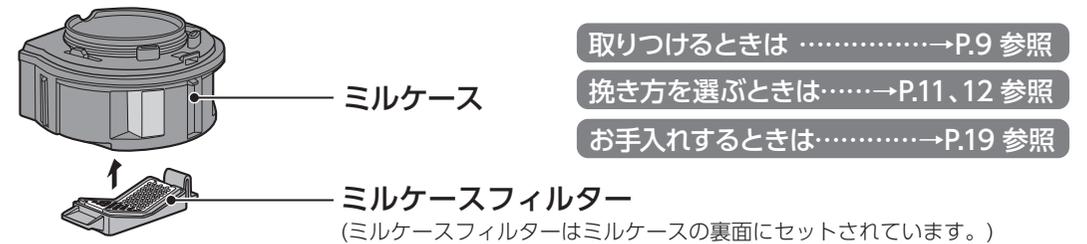


しずくもれ防止弁

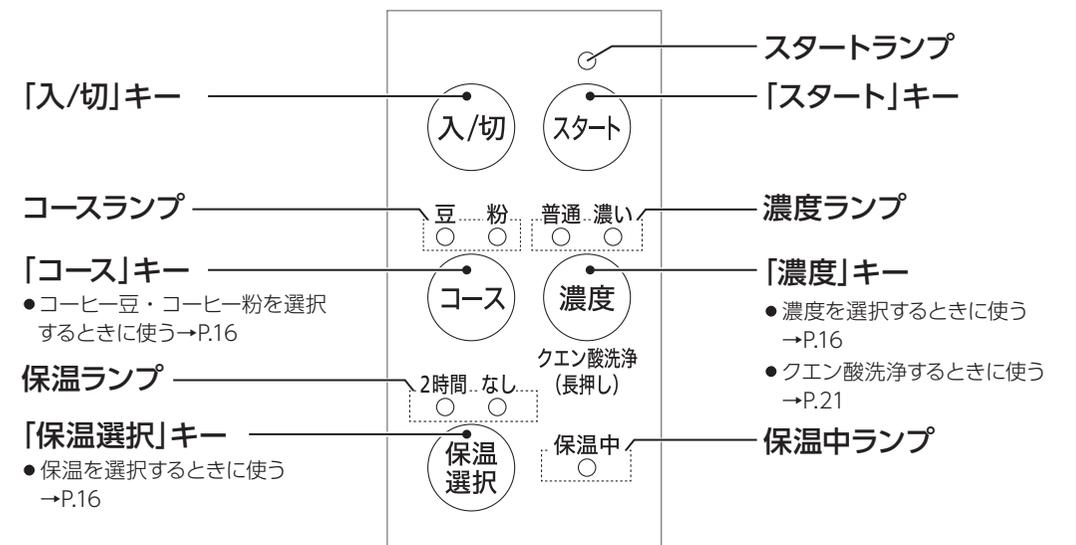
コーヒーのしずくがフィルターケースから漏れないようにするしくみです。

ドリップ中に自動でしずくもれ防止弁を開閉し、コーヒーの濃度調節を行うため、コーヒーが出てこない時間があります。

ミルケースセット

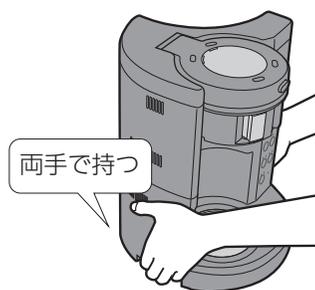


操作部



本体の持ち運び方

- ①スイングバスケット、水タンクをはずす
 - ②持ち手 (左右2カ所) を持って運ぶ
- 持ち運ぶときは、本体を傾けないでください。傾けると水がこぼれる場合があります。
 - ミルケース、ミルケースふたは持たないでください。
 - ガラス容器を載せたまま本体を動かさないでください。

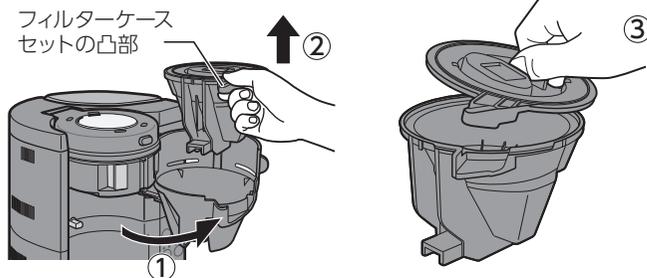


各部のつけ方・はずし方

フィルターケースセット

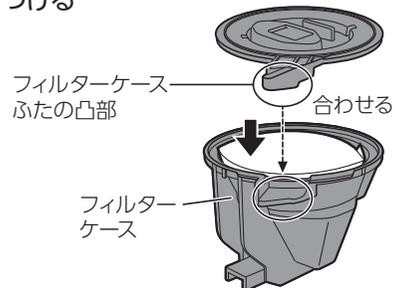
はずし方

- ①スイングバスケットを開ける
- ②フィルターケースセットの凸部を持ち、取りはずす
- ③フィルターケースふたをはずす



つけ方

フィルターケースふたの凸部をフィルターケースに合わせて取り付ける

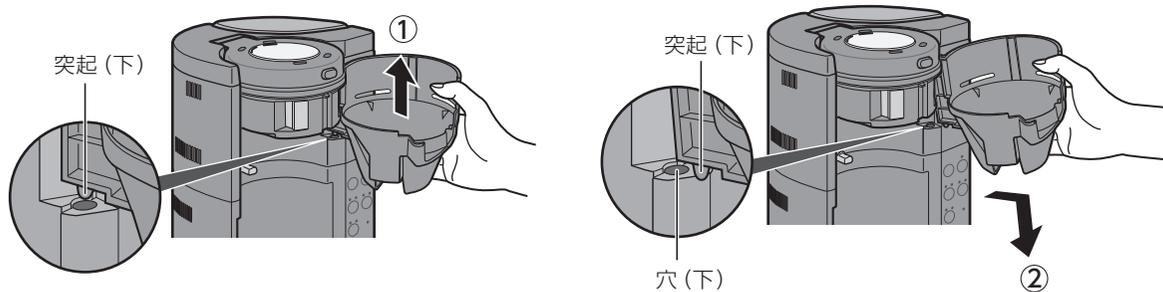


スイングバスケット

●ガラス容器、フィルターケースセットを取りはずしてから行ってください。

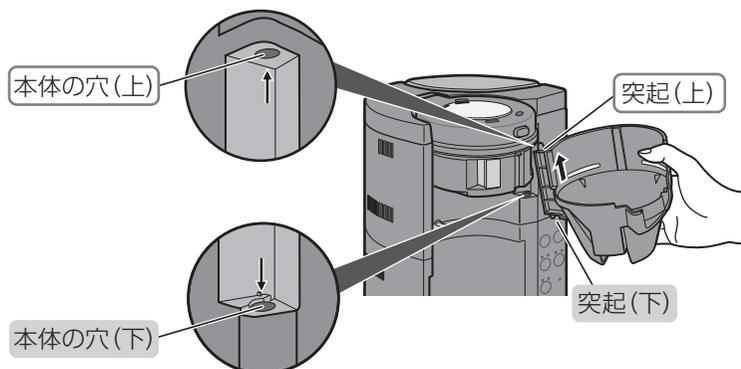
はずし方

- ①スイングバスケットを全開にし、持ち上げて突起(下)を浮かせる
- ②スイングバスケットを矢印の方向にずらして下方向にはずす



つけ方

突起(上)を本体の穴(上)に差し込んでから、突起(下)を本体の穴(下)に合わせてはめ込む

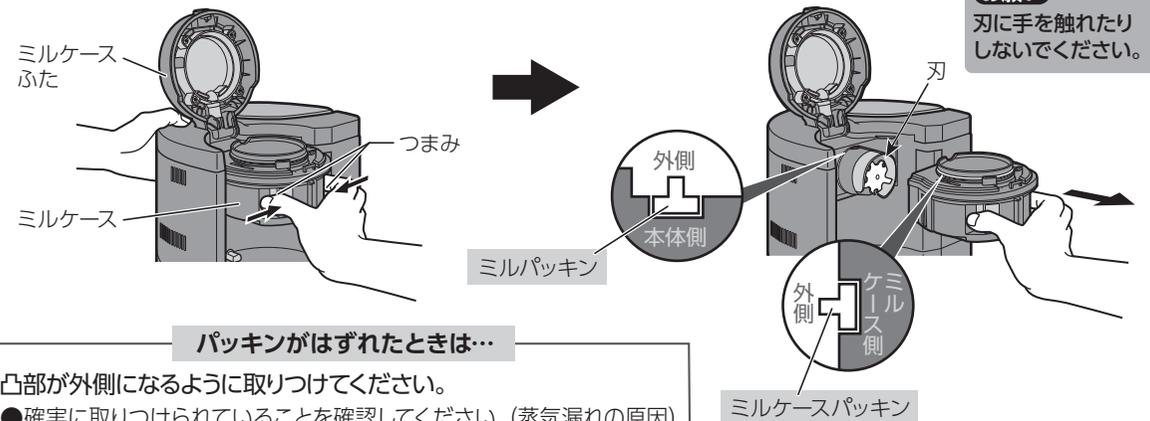


ミルクケース

はずし方

●ミルクケースふたを開けてからミルクケースをはずしてください。
(ミルクケースふたを開けないとミルクケースがはずせません)

- ①ミルクケースふたを開けてミルクケースの両側のつまみを内側に押す
- ②つまみを押しながら手前に引き抜く

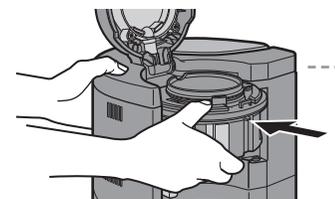


パッキンがはずれたときは…

- 凸部が外側になるように取りつけてください。
- 確実に取り付けられていることを確認してください。(蒸気漏れの原因)
 - パッキンのねじれなどに注意してください。

つけ方

ミルクケースを持って「カチッ」と音がするまで押し込む



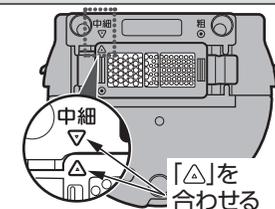
ミルクケースフィルター

●ミルクケースをはずしてからミルクケースフィルターをはずしてください。

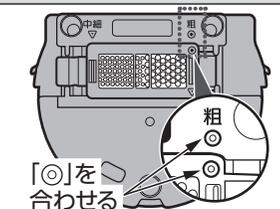
お好みの挽き方になるように、ミルクケースとミルクケースフィルターの記号を合わせて取りつけてください。

(このイラストは裏面です。)

中細挽きの場合

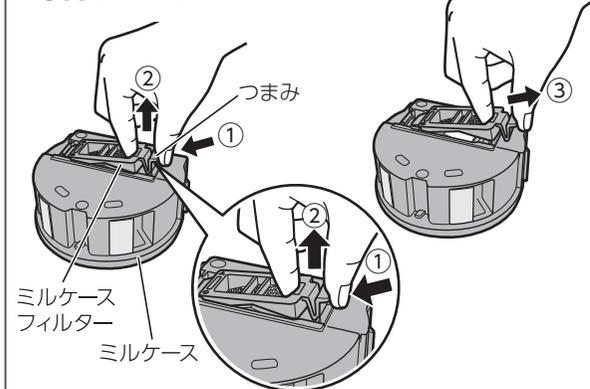


粗挽きの場合



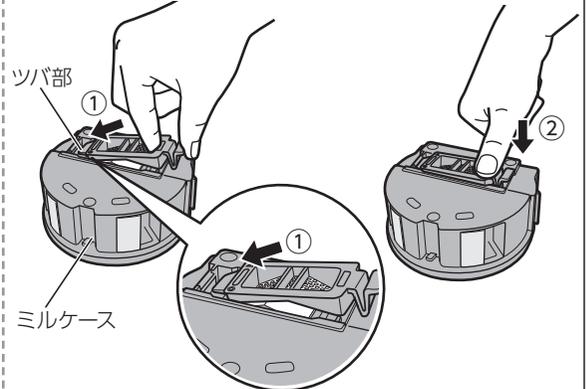
はずし方

- ①つまみを押さえながら
- ②持ち上げる
- ③はずす



つけ方

- ①ツバ部をミルクケースに差し込む
- ②「カチッ」と音がするまで押し込む



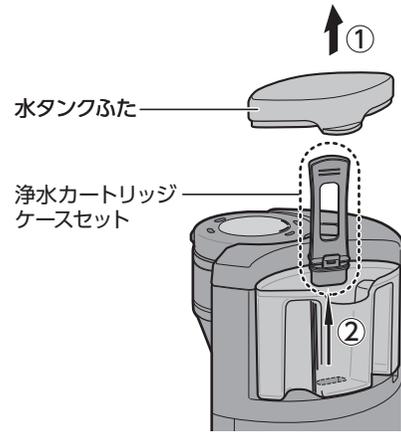
(このイラストは中細挽きの場合です。)

各部のつけ方・はずし方 つづき

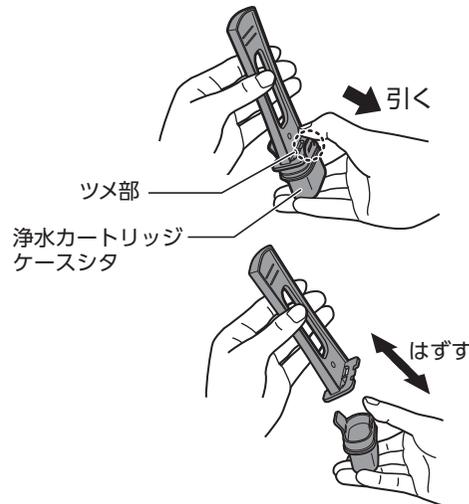
浄水カートリッジケースセット

はずし方

- ① 水タンクふたをはずす
- ② 浄水カートリッジケースセットをはずす



- ③ 浄水カートリッジケースシタのツメ部を引きながら取りはずす

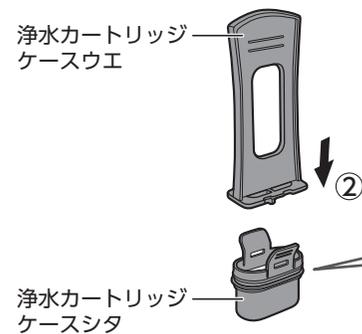


つけ方

- ① 浄水カートリッジを袋から取り出し、浄水カートリッジケースシタに入れる

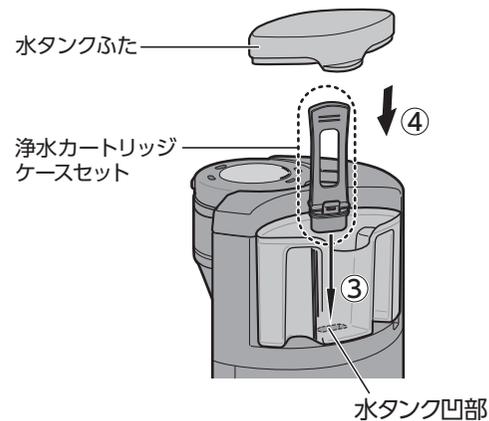


- ② 浄水カートリッジケースウエと浄水カートリッジケースシタを取りつける



- ③ 浄水カートリッジケースセットを水タンク凹部に奥までしっかり差し込む

- ④ 水タンクふたを閉める



浄水パッキンがついていることを確認してください。

パッキンは溝に合わせて取りつけてください。



●パッキンのねじれなどに注意してください。

使い方

- 初めてお使いになるとき
- 長期間お使いにならなかったとき

- ① 浄水カートリッジケースセット・ステンレスメッシュフィルター・フィルターケース・ガラス容器などを洗う →P.20
- ② 各部品を取りつける
- ③ 水タンク目盛の「HOT」コーヒークップ4] まで水を入れる
- ④ 「コース」キーを押して「粉」を、「濃度」キーを押して「普通」を選ぶ →P.16
- ⑤ 水だけでドリップして本体内部を洗浄する (③～⑤を1～2回繰り返す)

- この製品は家庭用です。業務用として使用しないでください。
- この製品はコーヒーを作るためのものです。コーヒーを作ること以外には使用しないでください。水以外のもの(牛乳・酒・コーヒー・湯など)を水タンクに入れると故障の原因になります。
- 使いはじめはプラスチックのにおいがすることがありますが、ご使用とともに少なくなります。また、黒い粉が落ちることがありますが、これは浄水用の活性炭で無害ですので使用上差しつかえありません。

1 ミルケースフィルターを取りつける

ミルケースふたの開閉方法

■開け方

ボタンを押しながら持ち上げる

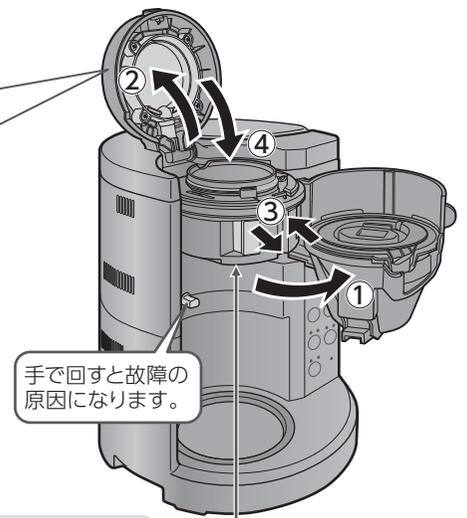


■閉め方

ミルケースふたの上部分を押しさえ、「カチッ」と音がするまで閉める

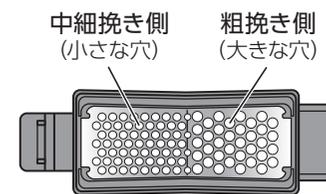
- ① スイングバスケットを開ける
- ② ミルケースふたを開ける
- ③ ミルケースをはずしてミルケースフィルターをお好みの挽き方になるよう取りつけたあと、再度ミルケースを取りつける (→P.9)
- ④ ミルケースふたを「カチッ」と音がするまで閉める

- スイングバスケットを開閉するときは本体が倒れないように注意してください。



手で回すと故障の原因になります。

ミルケースフィルター



刻印の記号

ミルケース	中細 ▽	粗 ◎
ミルケースフィルター	△	◎
挽き方	中細挽き	粗挽き

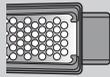
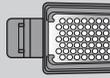
お願い

ミルケースフィルターは必ず取りつけてください。
(コーヒー豆が挽けない原因)

- 取りつける方向により、「中細挽き」と「粗挽き」を切りかえることができます。
- 挽き方を切りかえるにはミルケースとミルケースフィルターの刻印を同じ記号に合わせて取りつけます。(つけ方・はずし方→P.9)
- お買い上げ時には「中細挽き」の方向に取りつけています。

ミルクースフィルターとコース選択の組み合わせについて

2段階の挽き分けができるミルクースフィルターと、2段階の濃度調節ができるコース選択を組み合わせることにより、4通りの味わいをお好みで楽しめます。

4通りの挽き分け・濃度調節組み合わせ一覧 ※1		※1	
ミルクースフィルター	濃度	普通	濃い
粗挽き 		香りがはっきりとしていて、味わい軽やか、すっきりとした後味 フルーティな香りのモカ	柑橘系の香りがあり、味わいのバランスが良く、甘みが残る クリアでバランスのとれたブルーマウンテン
中細挽き 		香り、酸味、甘み、苦味の特徴がバランスよく感じられる味わい 明るい酸味のキリマンジャロ	後味は甘みを伴う苦味があり、コクが増す、ジューシーな口あたり 爽やかな風味のグアテマラ

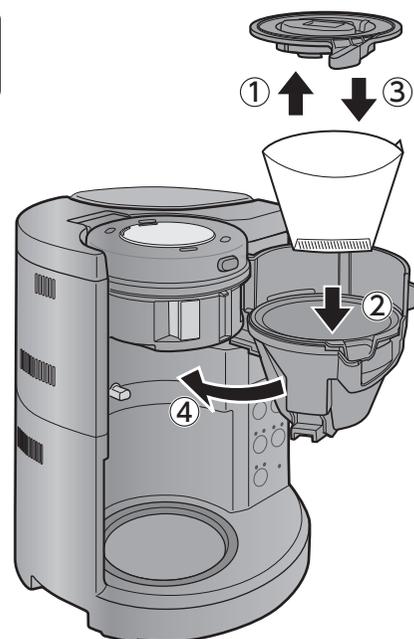
※1 小川珈琲株式会社所属SCAA/CQI認定Qグレーダーによる評価。
コーヒー豆の種類、挽き方、量などによって異なることがあります。

2 ペーパーフィルターを取り付ける

コーヒー豆と**コーヒー粉**、どちらをお使いの場合もペーパーフィルターを取りつけてください。

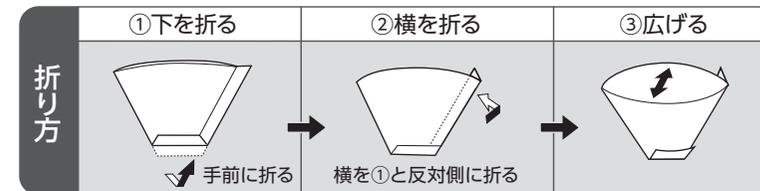
- ①フィルターケースふたを取りはずす
- ②フィルターケースにペーパーフィルターを取りつける
- ③フィルターケースふたを取りつける
- ④スイングバスケットを「カチッ」と音がするまで閉める

●ペーパーフィルターの代わりに付属のステンレスメッシュフィルターも使用できます。



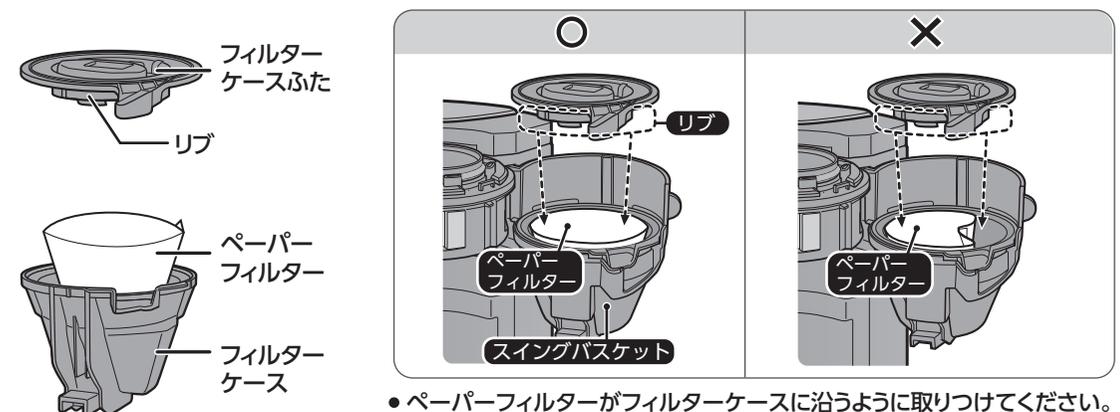
ペーパーフィルターの取りつけかた

●ペーパーフィルターを使用する場合は、ステンレスメッシュフィルターは使用しないでください。



●ペーパーフィルターは、上図のように折ってからフィルターケースに取りつけてください。

フィルターケースセット



●ペーパーフィルターがフィルターケースに沿うように取りつけてください。リブがペーパーフィルターの内側に入るように、フィルターケースふたを取りつけてください。

- 粉の種類によっては、コーヒー粉がフィルターからあふれる場合があります。（デカフェ、カフェインレス、浅煎りなどの粉はあふれやすいものがあります。）その場合は、ステンレスメッシュフィルターを使用するか、作るコーヒーの量（杯数）を減らしてください。
- コーヒー豆やコーヒー粉の種類、ペーパーフィルターの種類によっては、フィルターケースにコーヒーが多く残る場合があります。
- ペーパーフィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- ペーパーフィルターを使用する場合、正しく取り付けないとコーヒー粉がフィルターからあふれる恐れがあります。
- ペーパーフィルターとステンレスメッシュフィルターでは、できあがりのコーヒーの味がかわることがあります。

●フィルター（ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルター）なしで使用しないでください。（コーヒーがあふれる原因）

使い方 つぎ

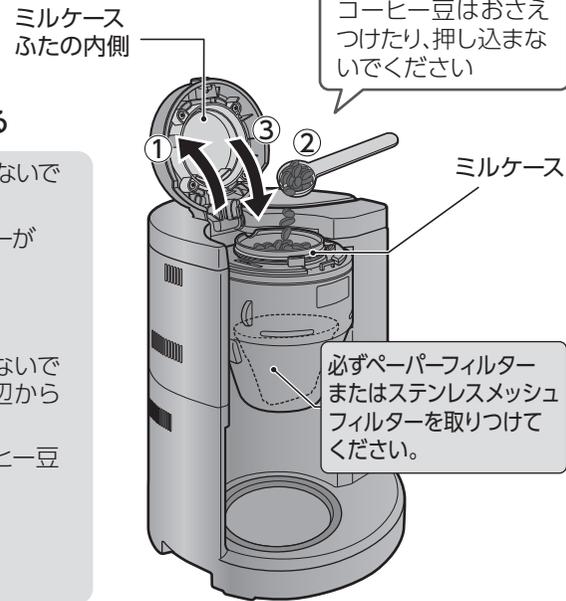
3 コーヒー豆またはコーヒー粉を入れる

- 計量スプーンのすりきり3¾杯(約30g)を超える量を入れしないでください。
(ミルクケースふた周辺から湯が飛び散ったり、スイングバスケットからコーヒーがあふれたり、内部モーターが故障する原因になります。)
- 1杯未満のコーヒーを作ることはできません。
- スイングバスケットを開閉するときには本体が倒れないように注意してください。
- スイングバスケットを正しく閉めないとおふれる原因になります。

コーヒー豆を入れる場合 …… ミルクケースに入れる

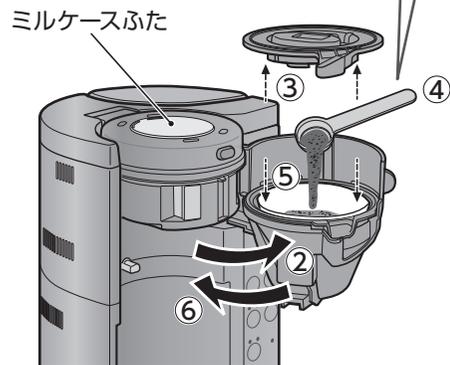
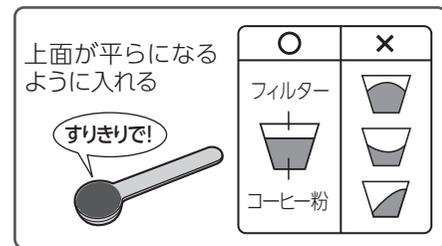
- ①ミルクケースふたを開ける
- ②ミルクケースにコーヒー豆を入れる
- ③ミルクケースふたを「カチッ」と音がするまで閉める

- コーヒー豆を入れたあとは、ミルクケースフィルターをはずさないでください。(ミルクケースからコーヒー豆が落ちる原因)
- ミルクケースふたの内側やミルクケース・ミルクケースフィルターがぬれている場合は、乾いた布でふき取ってください。(コーヒー豆が付着してミルクケース内に残る原因)
- 生豆や湿ったコーヒー豆を入れしないでください。
- ミルクケースにはコーヒー豆以外(コーヒー粉など)を入れしないでください。(ドリッピング時にミルクケース・ミルクケースふた周辺から湯などがあふれたり、故障する原因)
- コーヒー豆の焙煎度合いによっては、ミルクケースにコーヒー豆が残る場合や運転を停止することがあります。
- ミルクケースは毎回お手入れをしてください。(ミルクケースにコーヒー豆が残る原因)
- フィルターケースに豆を入れしないでください。



コーヒー粉を入れる場合 …… フィルターに入れる

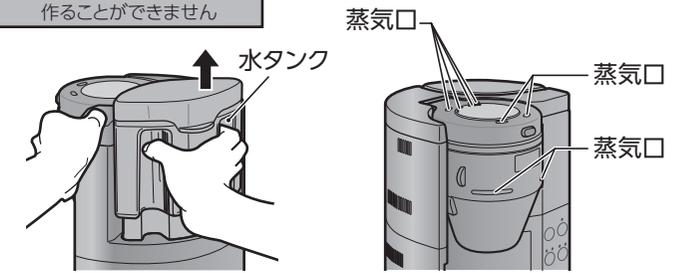
- ①ミルクケースふたがしっかり閉まっていることを確認する
- ②スイングバスケットを開ける
- ③フィルターケースふたを取りはずす
- ④ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターにコーヒー粉を入れる
- ⑤フィルターケースふたを取りつける
- ⑥スイングバスケットを「カチッ」と音がするまで閉める



- ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターにはコーヒー粉以外を入れしないでください。(ドリッピング時にスイングバスケットからコーヒーがあふれたり、故障の原因)
- 細挽き粉は使用しないでください。(フィルターが目詰まりし、コーヒーがあふれる恐れがあります。)
- フィルターケースふたは確実に取りつけてください。
- ミルクケースにコーヒー粉を入れしないでください。(ドリッピング時にミルクケース・ミルクケースふた周辺から湯などがあふれたり、モーターが故障する原因)

■コーヒー豆(粉)標準使用量

できあがり数	コーヒー豆(粉)量		
	ホットコーヒー	アイスコーヒー	
コーヒーカップ	4カップ	3¾杯(約30g)	3¾杯(約30g)
	3カップ	3杯(約24g)	3杯(約24g)
	2カップ	2¼杯(約18g)	2¼杯(約18g)
	1カップ	1¼杯(約10g)	作ることができません
マグカップ	2カップ	3杯(約24g)	
	1カップ	1¾杯(約14g)	



4 水タンクに水を入れる

①水タンクを本体からははずす

- 本体を押さえずにはずしてください。本体が持ち上がり、落下することがあります。(蒸気口には手を触れないでください。)

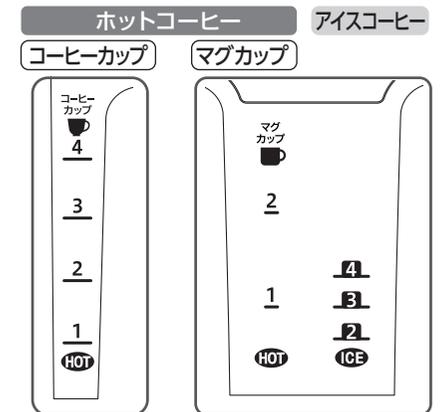
②浄水カートリッジケースセットを正しく取りつけていることを確認する(→P.10)

③作るコーヒーの量の水タンク目盛まで水を入れ、水タンクふたを取りつける

故障や水漏れ、コーヒーがあふれる原因になるため、以下のことをお守りください。

- 水タンク目盛の「HOT」コーヒークップ4を超える水を入れしないでください。ガラス容器からコーヒーがあふれる恐れがあります。
- ドリッピング中は水をつぎ足さないでください。
- 水タンクに湯を入れしないでください。
- 水タンクを本体に取りつけた状態で水を入れしないでください。水が製品内部に流れ込むため水量が多くなります。
- 浄水カートリッジケースセットは水タンクに水を入れる前に取りつけてください。

【水タンク目盛】



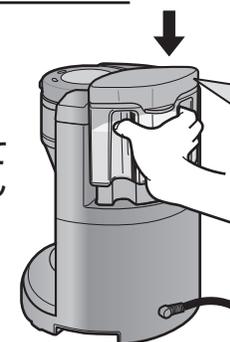
ガラス容器の目盛は水タンクに入れる水の量とコーヒーができて量を目安を示しています。

ミネラルウォーターを使用時のお願い

- 硬度200以上のものは使用しないでください。製品内部の水管にミネラル分が付着して、ドリッピング時間が長くなったり、最後までドリッピングできなくなることがあります。
- できるだけ硬度100以下のものを使用してください。
- 使用中にドリッピング時間が長くなったときは、クエン酸洗浄を行ってください。(→P.21)

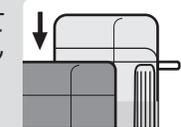
5 水タンクを取りつける

水タンクを本体に沿って根元までしっかりと差し込む



本体に沿ってまっすぐ差し込む

根元までしっかりと差し込む



- 水タンクを根元まで差し込まないと故障の原因になります。また、ドリッピング中に湯が出ないことや、水タンクに水が残った状態でドリッピングが完了することがあります。

使い方 つづき

6 ガラス容器を取りつける

ガラス容器を保温板に載せる

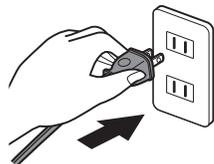
- ガラス容器は保温板にこすれないように載せてください。
- 保温板が汚れたり、水分がついたりした状態で使用すると、保温板の塗装がはがれたり、変色する原因になります。
- ガラス容器には必ずガラス容器ふたを取りつけてください。(→P.5)



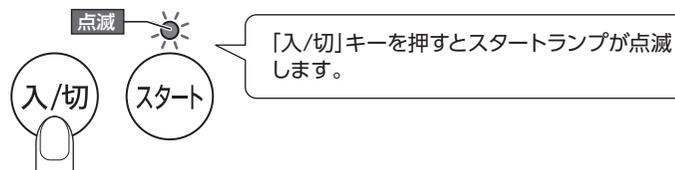
7 差し込みプラグをコンセントに差し込み、「コース」・「濃度」・「保温選択」を選んでスタートする

① 差し込みプラグをコンセントに差し込む

- 本体を水にぬれた場所で使用しないでください。感電の原因になります。



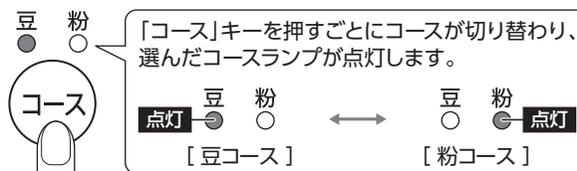
② 「入/切」キーを押す



「入/切」キーを押すとスタートランプが点滅します。

③ 「コース」キーでコースを選ぶ

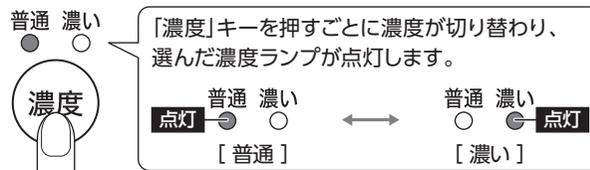
- [豆コース]と[粉コース]を間違えないように注意してください。



「コース」キーを押すごとにコースが切り替わり、選んだコースランプが点灯します。

④ 「濃度」キーで濃度を選ぶ

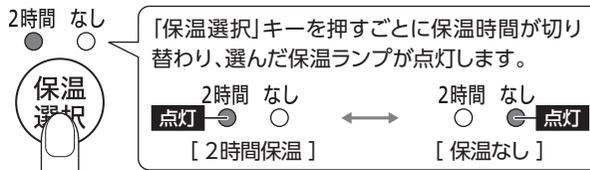
- ドリッピング中に自動でコーヒーの濃度調整を行います。



「濃度」キーを押すごとに濃度が切り替わり、選んだ濃度ランプが点灯します。

⑤ 「保温選択」キーで保温時間を選ぶ

- [2時間保温] ドリッピング完了後に2時間保温します。
- [保温なし] ドリッピング完了後は保温しません。



「保温選択」キーを押すごとに保温時間が切り替わり、選んだ保温ランプが点灯します。

- ドリッピング中や保温中は保温設定を切り替えることができません。

⑥ 「スタート」キーを押す



スタートランプが点滅から点灯に変わります。

- プラグを抜いても前回の設定を記憶しています。

- 「スタート」キーを押さずに約10分経過すると自動的に電源が切れます。
- コーヒー豆の挽きははじめは大きな音が出ます。
- コーヒー豆を挽き終えたあと、しばらくすると再度ミルが回転します。(洗浄のためで、異常ではありません。)

できあがり時間の目安

(水温20℃、室温20℃、コーヒー豆を使用した場合)

カップ数	1	2	3	4
コーヒーカップ	5分	6.5分	7.5分	8.5分
マグカップ	5.5分	7.5分	—	—

- できあがり時間は、水量・室温・コーヒー豆の量などで変わります。
- コーヒー粉を使用した場合は約1分短くなります。

「豆」と「粉」を間違えて選んでスタートしたときは…

コーヒー豆を使用するときに「粉」を選んだ場合

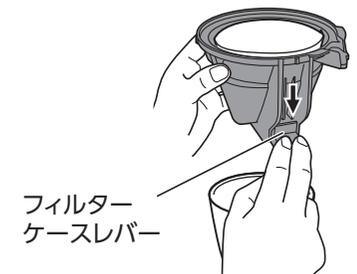
「入/切」キーを押したあと、「使い方7-②」からやり直してください。
(ドリッピングによりコーヒー豆がぬれているときは、新しいコーヒー豆で「使い方1」からやり直してください。→P.11)

コーヒー粉を使用するときに「豆」を選んだ場合

運転が停止することがあります。
(ブザーが鳴り、コーヒー豆ランプが点滅します。)
→「入/切」キーを押したあと、「使い方7-②」からやり直してください。

途中でやめるときは…

- ① 「入/切」キーを押す
- ② 本体が冷めてフィルターケースからコーヒーが落ちてこなくなったことを確認したあと、ガラス容器とフィルターケースセットを取り出す
- ③ フィルターケースの下に容器を置き、フィルターケースレバーを押してフィルターケースにたまったコーヒーを捨てる
- ④ 水タンクをはずし、残っている水を捨てる



- フィルターケース内にコーヒーがたまっているのをバスケットを開くとコーヒーがこぼれる恐れがあります。
- コーヒーを捨てるときはやけどに注意してください。
- 水タンクをはずしたときに水タンクから水が垂れることがあります。
- やめた時点からの再開はできません。もう一度ご使用のときは「使い方1」からやり直してください。(→P.11)

使い方 つづき

8 ブザーが鳴りドリップが完了

【2時間保温】を選んだ場合:

- 保温ランプが点灯し、自動的に保温に移ります。
- 保温は約2時間で自動的に切れます。
- 2時間以内に保温を終了する場合は「入/切」キーを押して保温を切ってください。
- 保温中にミルクケースふた、またはスイングバスケットを開くと保温が終了します。

【保温なし】を選んだ場合:

- 全てのランプが消灯し、保温しません。

極端に傾けるとガラス容器ふたがはずれる恐れがありますのでご注意ください。



お願い

- 使用後は差込みプラグを抜いてください。

ガラス容器を取り出して、コーヒーカップに注ぐ
●ガラス容器は保温板にこすれないように取り出してください。

■熱いコーヒーをお好みの方は…

- あらかじめカップを熱湯などであたためておいてから注いでください。
- できあがったらガラス容器をそのまま保温板に載せて保温をしてください。

■保温を続けるときは…

- ガラス容器にガラス容器ふたを取りつけたまま保温する
- 長時間保温すると香りがぬげ、風味が悪くなります。

ドリップ後は…

スイングバスケットを開けて本体からフィルターケースセットをはずし、ドリップ済みのペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターを取り出してください。

- 金属部分や、湯を含んだペーパーフィルターは熱くなっていますのでやけどに注意してください。
- フィルターケース内にコーヒーがたまっている場合はフィルターケースレバーを押してコーヒーを捨ててください。

連続してコーヒーを作るときは…

- 本体を5分以上冷ましてから「使い方1」より行ってください。(→P.11)
- 運転完了または停止後、約5分間は連続運転できません。
- 本体が熱いうちに給水したり、動かしたりしないでください。
- ミルクケースフィルターにコーヒー豆やコーヒー粉が付着している場合は取り除いてください。
ミルクケース・ミルクケースふた周辺からコーヒーがあふれる恐れがあります。(コーヒー豆を使ったあとのみ)

アイスコーヒーの作り方

準備するもの

- アイスコーヒー用コーヒー豆
またはコーヒー粉
- 氷



作り方

- ①「使い方1~7」と同じ手順でコーヒーを作ります。(→P.11)
 - 水量は水タンクの の目盛に合わせてください。
 - 【保温なし】を選んでください。
 - ②グラスに約60g(4個分*)の氷を入れて、できたてのコーヒー(1杯約60mL)を注ぎ、かき混ぜて冷やします。
*角氷(2.5cm角)の場合。入れる氷の個数は氷の大きさによりかわります。お好みにより調整してください。
- アイスコーヒーを1カップ分だけ作ることはできません。2カップ以上で作ってください。

お手入れ

差込みプラグをコンセントから抜き、本体・ガラス容器が冷めてからお手入れしてください。

- ご使用ごとに必ずお手入れしてください。
- 本体・コード・差込みプラグに直接水をかけたり、丸洗いはしないでください。(感電・故障の原因)
- 食器洗い乾燥機や食器乾燥器を使用しないでください。(部品変形の原因)
- 熱湯は使用しないでください。(変形や割れの原因)
- 次のものは使用しないでください。
 - 台所用中性洗剤以外の洗剤、シンナー、ベンジン、漂白剤など(変色・割れ・劣化・腐食の原因)
 - みがき粉、ナイロンたわし、金属製のもの、メラミンスポンジ、スポンジのナイロン面、研磨剤入り洗剤など(表面が傷つく原因)
- 本体の刃部以外の部分にブラシを使用しないでください。(表面を傷つける原因)
- 化学ぞうきんを使用する場合は、強くふいたり長時間触れさせたりしないでください。(表面が傷ついたり、化学変化を起こす原因)
- 長期間使用しないときは、十分乾燥させて、においがつかないようにし、ポリ袋などに入れて保管してください。

本体・保温板

- ①薄めた台所用中性洗剤を柔らかい布に含ませ、固く絞り、汚れをふき取る
 - ②水を絞った柔らかい布でよくふく
 - ③乾いた柔らかい布で水分をふき取る
- コーヒーを捨てるときはやけどに注意してください。
 - 保温板や本体(保温板のまわり)にコーヒーのしずくやコーヒー粉が残っているときは、よくふき取ってください。

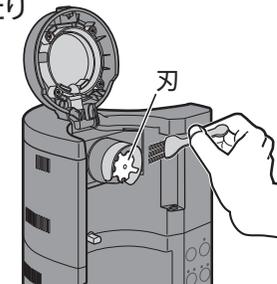
ミルクケース・ミルクケースフィルター

- ①ミルクケース・ミルクケースフィルターを取りはずす(はずし方→P.9)
 - ②薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
 - ③水洗いする
 - ④乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る
- 十分に水切りをしてください。内部に水がたまることがあります。
 - ミルクケースを水に浸さないでください。すき間に水がたまり、さびや変形の原因になります
 - コーヒー豆やコーヒー粉が付着している場合は取り除いてください。
ミルクケース・ミルクケースふた周辺からコーヒーがあふれる恐れがあります。

本体(刃部)

刃の部分は棒などで回しながら付属のブラシでコーヒー豆やコーヒー粉を取り除いてください。(刃は鋭利なため、手を入れたり触れたりしないでください。)

- 付属のブラシで刃を回さないでください。
- 刃を変形させたり、刃だけがをしないよう注意してください。



浄水カートリッジ

水で洗い流したあと、よく乾燥させる

- 浄水カートリッジは消耗品です。交換時期の目安は、水質や使い方により異なりますが約2年です。(1日1回使用した場合)
- 洗剤は使用しないでください。

コード・差込みプラグ

乾いた柔らかい布でふく

お手入れ っづき

フィルターケース

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
- ②水洗いする
- ③フィルターケースの中に水を入れ、しずくもれ防止弁を2~3回動かし、汚れを洗い流す
- ④乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る



- しずくもれ防止弁にコーヒー粉が詰まると弁が閉まらずにコーヒーが漏れることがありますので、毎回洗ってください。
- 十分に水切りをしてください。ドリップ中に水滴が垂れることがあります。
- しずくもれ防止弁は引っ張ったり、無理に回すとはずれることがありますので注意してください。
- フィルターケースを水に浸さないでください。すき間に水がたまり、さびや変形の原因になります。

●しずくもれ防止弁は分解しないでください。

防止弁パッキンがはずれたときは、しずくもれ防止弁を押さえた状態で溝部に取りつける



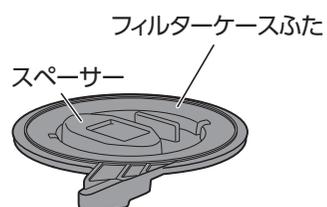
●防止弁パッキンが確実に取り付けられていることを確認してください。

歪んだり、はまっていないと水漏れの原因になります。

○	正しく取り付けられた状態	
✕	すきまなどから水漏れします。	歪んでいる
		はまっていない

水タンク・水タンクふた・浄水カートリッジケースウエ・浄水カートリッジケースシタ・スイングバスケット・フィルターケースふた・ステンレスメッシュフィルター・ガラス容器

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
- ②水洗いする
- ③乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る



- スイングバスケットは、十分に水切りをしてください。ドリップ中に水滴が垂れることがあります。
- フィルターケースふたのスペーサーは取りはずさないでください。
- ステンレスメッシュフィルターなどの樹脂は、食品衛生上安全な材料を使用していますが、樹脂がザラザラしてきたり、損傷してきた場合は新しい部品に交換(有料)してください。1年を目安にご確認ください。
- ガラス容器は、落としたり固いものにぶつけないよう注意してください。ガラスが割れてけがの恐れがあります。

ミルクケースブラシ

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
- ②水洗いしたあと、よく乾燥させる

湯の出が悪くなったら、クエン酸洗浄を行ってください。

コーヒーマーカーをお使いいただいているうちに水の中に含まれているミネラル分が本体内部の水管などに付着します。

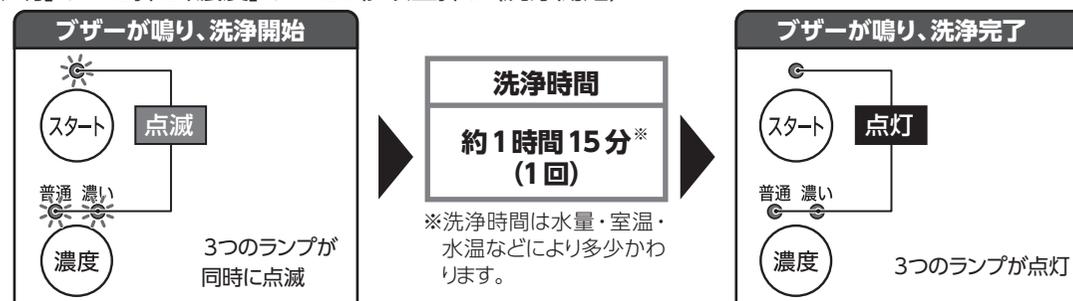
ミネラル分が付着すると湯の出具合が悪くなり、コーヒーのドリップ量が少なくなったり、本体のすき間から湯が漏れることがあります。

- ミネラル分はクエン酸洗浄で取り除いてください。(下記「クエン酸洗浄のしかた」参照)
- クエン酸洗浄は約4週間に1回が目安です。
水質によって異なり、ミネラル分の多い地域やミネラルウォーターなどをご使用の場合は、ミネラル分が付きやすくなります。

クエン酸洗浄のしかた

- 洗浄の前に必ず浄水カートリッジケースセットをはずしてください。
浄水カートリッジをつけたままクエン酸洗浄を行うとクエン酸のにおいがついたり、コーヒーの味がかわる原因になります。
- 浄水カートリッジケースセットを取りつけたままクエン酸洗浄をしたときは、水で洗い流してください。(クエン酸のにおいをとるため)

- ①コップに小さじ1.5杯(約6g)のクエン酸を入れて、ぬるま湯で溶かし、水といっしょに水タンク目盛の「コーヒーカップ 4」まで入れる
- ②水タンク内の溶液をよくかき混ぜる
- ③水タンク・フィルターケースセット・ミルクケース・スイングバスケットを本体に取りつけ(ペーパーフィルター・ステンレスメッシュフィルターは取り付けしないでください)、ガラス容器(ガラス容器ふたを取りつけた状態)を保温板に載せる
- ④「入/切」キーを押し「濃度」キーを3秒以上押す(洗浄開始)



- ⑤「入/切」キーを押す
- ⑥ドリップされたクエン酸溶液を別の容器に移して冷まし、溶液の中に混ざっている白い結晶などを除く
- ⑦本体を**5分以上**冷ます
- ⑧⑥のクエン酸溶液を再度水タンクに入れ、④~⑦を白い結晶などが出なくなるまで繰り返す
- ⑨本体・保温板が十分冷めてから、ガラス容器と水タンク内をすすいだあと、クエン酸のにおいを取るために水だけで数回ドリップする
(連続してドリップするときは、スタートランプが消灯した状態で**5分以上**待つ)
- ⑩差込みプラグをコンセントから抜く

●途中でクエン酸洗浄をやめるときは、「入/切」キーを押してください。途中でやめた場合は、再び①から操作を行ってください。

●泡立ち、ふきこぼれ防止のため弊社のパイプ洗浄用クエン酸(コーヒーマーカークリーナー)をお使いください。(別売品) → P.24
クエン酸(100%)は食品添加物として使用されており、食品衛生上無害ですが食べないでください。

●湯の出が悪い場合は再度クエン酸洗浄をしてください。

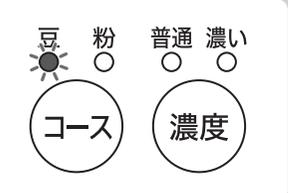
故障かなと思ったとき

修理を依頼される前に、
次の点をお調べください。

こんなときは	お調べいただくこと	直しかた
「入/切」キーを押しても通電しない	差込みプラグがはずれていませんか？	差込みプラグをコンセントに差し込んでください。
湯が出ない 湯の出が悪く、ドリップの スピードが遅い	水タンクに水が入っていますか？	水タンクに水を入れてください。(→P.15)
	水タンクは正しく取り付けられていますか？	水タンクを正しく取り付けてください。(→P.15)
本体内部の水管などにミネラル分が付着すると湯の出具合が悪くなります。 クエン酸洗浄を行ってください。(→P.21)		
コーヒーがぬるい (保温が効いていない)	「保温なし」を選択していませんか？	「スタート」キーを押す前に「2時間保温」を選択してください。
「スタート」キーを押してもブ ザーが鳴りスタートできない	スイングバスケットまたはミルクケースふたが確実に閉まっていますか？	スイングバスケットまたはミルクケースふたを確実に閉めてください。(→P.11~14)
	フィルターケースは正しく取り付けられていますか？	フィルターケースを正しく取り付けてください。(→P.8)
	フィルターケースふたは取り付けられていますか？	フィルターケースふたを取りつけてください。(→P.8)
	ドリップ完了後、すぐに連続して コーヒーを作っていないですか？	本体が熱いので、5分以上冷ましてからコーヒーを作ってください。 ドリップ完了後、約5分間は連続運転できません。
コーヒー豆がミルクケースに 残る	ミルクケースふたの内側・ミルクケース・ ミルクケースフィルターがぬれたままで コーヒー豆を入れていませんか？	①ミルクケースを取りはずし、コーヒー豆を取り出す ②ミルクケースふたの内側やミルクケース・ ミルクケースフィルターの水分をふき取る ③新しいコーヒー豆でやり直す
	計量スプーン3 ¾ 杯(約30g)を超 える量のコーヒー豆を入れていませんか？	計量スプーン3 ¾ 杯以下で入れてください。 (→P.15)
コーヒー豆の焙煎度合いによってはミルクケースにコーヒー豆が残る場合があります。		
コーヒーがフィルターケース 内に残る	ドリップ完了後も、フィルターケース内に少量のコーヒーが残ります。また、コーヒー豆やコーヒー粉の種類、ペーパーフィルターの種類によっては、フィルターケース内に コーヒーが多く残る場合があります。	
水タンクの中に水が残る	水タンクは正しく取り付けられていますか？	水タンクを正しく取り付けてください。 (→P.15)
	本体内部の水管などにミネラル分が付着すると湯の出具合が悪くなり、水タンクの中に 水が残ることがあります。クエン酸洗浄を行ってください。(→P.21)	
コーヒー粉がフィルターケース からあふれる	ミルクケースフィルターは正しく取り つけられていますか？	ミルクケースフィルターを正しく取りつけて ください。(→P.9)

こんなときは	お調べいただくこと	直しかた
コーヒーやコーヒー粉が フィルターからあふれる	ペーパーフィルターまたはステンレス メッシュフィルターは正しく取りつけ られていますか？	ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュ フィルターを正しく取りつけてください。 (→P.12~14)
	計量スプーン3 ¾ 杯を超える量の コーヒー豆(粉)を入れていませんか？	計量スプーン3 ¾ 杯以下で入れてください。 (→P.15)
	しずくもれ防止弁にコーヒー粉が 詰まっていますか？	フィルターケースをお手入れしてください。 (→P.20)
	フィルターケース・ミルクケースフィルター は正しく取り付けられていますか？	フィルターケース・ミルクケースフィルターを 正しく取り付けてください。(→P.8~9)
	細挽き粉を使用していませんか？	細挽き粉を使用しないでください。
	スイングバスケットをしっかり閉じて いますか？	スイングバスケットをしっかり閉じてくださ い。(→P.12, 14)
	ペーパーフィルターとステンレス メッシュフィルターを重ねて使用 したり、ペーパーフィルターを2枚 以上重ねて使用していませんか？	ペーパーフィルター1枚のみ、またはステン レスメッシュフィルターのみで使用してく ださい。
	粉やペーパーフィルターの種類によっては、コーヒーがフィルターからあふれる 場合があります。その場合は、ステンレスメッシュフィルターを使用するか、作る コーヒーの量(杯数)を減らしてください。	
運転中にブザーが鳴り、 コースランプの「豆」と濃度 ランプの「普通」が同時に点 滅している	コーヒー豆を入れすぎていませんか？	差込みプラグを抜いたあと、ミルクケースを取 りはずし、コーヒー豆を取り出す。 お手入れをしたあと新しいコーヒー豆でやり 直す。(→P.11~18, 19)
	湿ったコーヒー豆を入れていま せんか？	お使いになるコーヒー豆の焙煎度合いによっ ては、上記に従ってやり直した場合でも再度運 転を停止することがあります。その場合は、ミ ルクケースフィルターを「粗挽き」側に取りつ けて運転してください。(→P.9, 11)
豆粉 普通 濃い ☀ ○ ☀ ○ コース 濃度		コーヒーのできあがり感が薄く感じられる場 合は、濃度を「濃い」に設定するか、コーヒー 豆の量を調節してください。(→P.16)
運転中に「ピー」とブザーが 鳴り、運転が止まった	スイングバスケットやミルクケースふた を途中で開けていませんか？	安全装置が働いています。 コーヒー豆やコーヒーを捨て、お手入れした あと「使い方1」からやり直してください。(→P.11)

故障かなと思ったとき つづき

こんなときは	お調べいただくこと	直しかた
<p>運転中にブザーが鳴り、コースランプの[豆]が点滅している</p> 	<p>コーヒー豆を入れ忘れていませんか?</p> <p>入れるコーヒー豆が少なすぎませんか?</p> <p>コーヒー粉を使ったときに[豆コース]を選択していませんか?</p> <p>ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターにコーヒー豆を入れていませんか?</p>	<p>①「入/切」キーを押す ②コーヒー豆を入れ、「使い方7-②」からやり直す(→P.16)</p> <p>計量スプーンで1¼杯以上はコーヒー豆を入れてください。(→P.15)</p> <p>①「入/切」キーを押す ②「使い方7-②」からやり直す(→P.16)</p> <p>ミルケースにコーヒー豆を入れてください。</p>
電源コードが熱くなる	ご使用中は、電源コードが熱くなる場合がありますが異常ではありません。	
お手入れするときは…	差込みプラグをコンセントから抜き、本体を5分以上冷ましてからお手入れしてください。	

部品の交換・購入について

- 損傷した場合は、新しい部品と交換(有料)してください。
- お買い求めの際には製品の型名および部品名をご確認のうえ、お買い上げの販売店でお求めください。(ホームページでのご購入はP.26「お客様ご相談窓口」参照)

	部品名	部品番号
消耗品	浄水カートリッジ	718849-00
部 品	コーヒーメーカー用ガラス容器(ジャグ)	JAGECSA-BA
	ステンレスメッシュフィルター	BG781825A-BA
	コーヒーメーカー用計量スプーン	BG805028L-01
	ミルケースブラシ	718336-00
別売品	パイプ洗浄用クエン酸(コーヒーメーカークリーナー)(6g×5包入り)	EC-ZA01-J

- ガラス容器(ジャグ)には、ガラス容器ふたはついていません。

アフターサービス

- 1. 保証書の内容のご確認と保管のお願い**
必ず「販売店印およびお買い上げ日」をご確認のうえ、お買い上げの販売店から受け取り、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- 2. 保証期間は、お買い上げ日より1年間**
ただし、浄水カートリッジは消耗品のため、保証期間内でも有料です。
- 3. 修理を依頼される時**
「故障かなと思ったとき」(P.22~24)をご確認のあと、直らない場合は使用を中止し、コンセントから差込みプラグを抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。
《保証期間中》
製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店にご持参ください。保証書の記載内容に基づき修理いたします。
《保証期間を経過しているとき》
修理すれば使用できる製品は、ご要望により有料修理いたします。
- 4. 補修用性能部品※の保有期間は、製造打ち切り後 5年間**
※性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 5. 修理料金の仕組み**
修理料金は、技術料・部品代などで構成されています。
【技術料】は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
【部品代】は、修理に使用した部品および補助材料代です。
■お客様ご自身での修理・分解や改造は絶対にしないでください。

仕様

型 名	EC-SA40
電 源	交流100V 50/60Hz
消 費 電 力	650W
容 量	最大使用水量 540mL
ミル 定 格 時 間	40秒
方 式	ドリップ式
コードの長さ	1.3m(ゴムコード)
外形寸法(約cm)	幅24×奥行25×高さ32
質 量	約3.7kg

- 外形寸法はガラス容器のとっ手を除いた寸法です。
- 特定地域(高い山・厳寒地など)においては、所定の性能が確保できないことがあります。こうした場所での使用はなるべくおさげください。
- この製品は、日本国内交流100V専用で設計されています。電源電圧や電源周波数の異なる外国では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance was designed for use in Japan only where the local voltage supply is AC100V and should not be used in other countries where the voltage and frequency vary.

After-sales service for this appliance is not available outside of Japan.

此产品只针对日本国内专用交流电压100V所设计。由于各国所使用电压或电源频率不同，请勿用于其它地区。另亦无法对此提供售后维修服务。

此產品為針對日本國內專用交流電壓100V所設計。由於各國所使用電壓或電源頻率不同，請勿於其他地區使用。另亦無法對此提供售後維修服務。

본 제품은 일본 국내교류 100V전용으로 설계되었기에 전압이나 전원 주파수가 상이한 외국에서는 사용할 수 없습니다. A/S 또한 불가능합니다.

